

こんにちは。いつもお世話になっております。校長の向本です。

今日はこの7月から始動している「WAYプロジェクト」の紹介をさせていただきます。

本年度から中学校で習う「科目」として「道徳科」が導入されました。この道徳の時間を大正中では、昨年度から「生き方」の授業として、人間らしい生き方について考える時間としています。人間らしい在り方のために欠かせない「22項目」の内容を子どもたちと共に考えていく学習に取り組んできました。1学期はクラスや班の仲間、友人との関わりの中から「自由」「責任」「規律」などについて考えてきました。大中祭が終わってからは、また「生き方」が再開されます。

このファイルのNo.6で紹介させて頂きましたが、10月に予定している「哲学対話」をきっかけに、この「生き方」科の授業をもっと充実したものにしていこうという話になり、それに向けて7月終わりに教員でプロジェクトチームを立ち上げました。

ベタに言う「道徳教育推進委員会」ですが、ネーミングにこだわろうということで、いろいろ考え「WAYプロジェクト」ということになりました。WAYは「道」という意味です。もちろん「道徳」からとったのですが、わかりやすく言うと“人としての自分の生きる「道」”や“生き方を考える際のきっちりとした「道すじ」”を描いていく力を育てるためにどのような教育をすればいいのかを考えるために作ったチームです。松浦先生をリーダーに、メンバーがアグレッシブに活動しています。また、教員だけでなく、PTA会長の石口さん、“学び”育成委員会（学校運営協議会）座長の仲川さん、No.6で紹介した市P顧問・県P副会長の齋藤さんもこのプロジェクトに参加してくれています。

「道徳」と言われれば、何やら上から目線で、たてまえやきれいな事を押しつけられるというイメージがあることも事実です。それはそれとして、本校の教員のほとんどは、この大正校区は「人としての在り方」には人一倍敏感な地域だと感じています。振り返ってみると私もこれまでたくさんの保護者の方の「生き方」に出会わせていただきました。頭でっかちの世間知らずで、ただ「教師」という肩書きだけの若い私に、人生の先輩として「人の道」や「ものごとのすじ道」を、子どものことをそっちのけで（笑）話してくださった中身が、校長としての今の私の財産になっています。

「完璧な人間も教師もいてへん。先生自身が、子どもらに愛情をもって接したってくれて、一緒にがんばったってくれて、人として向上する姿を背中で見せたってください。」←（担任時代、こんなことを良く言われたものです。）

「教師自らが生徒と共に自らの道徳性を養い、よりよく生きようという姿勢を大切にし、日々の授業の中で愛情をもった生徒への指導をすることが重要となる。」←（学習指導要領解説 特別の教科 道徳編に記されています。）

↑ 同じ内容だとは思いませんか？

教師が一方向的に価値観を押しつけるのではなく、「人」としての在り方にこだわる道徳教育を進めていきたいと思っています。活動の内容は、HPの「生き方・世の中」の「WAYプロジェクト」のファイルで、そのつど報告させていただきます。

（この原稿は「校長室から（10）」から転載させて頂きました。）